

1. 調査報告概要表

作成日 2008年1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2192400014
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	愛の家グループホームたるい
所在地 (電話番号)	岐阜県不破郡垂井町綾戸895-8 (電話) 0584-24-1071
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻法狐穴719-1
訪問調査日	平成19年12月8日

【情報提供票より】(19年11月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤	5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(11月29日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 82 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古川医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大垣市と垂井町の境界に位置したホームで、周囲は田んぼや山があり、のどかな田園風景が広がっている。ホームの両側には一戸建ての団地があるが、それらの団地との行き来はあまりない。ホーム内は、明るくて清潔な居心地の良い空間となっている。開設されて1年立たない新しいホームであるが、利用者の気持を尊重しようとする管理者の気持が職員全体に行き渡り、ゆったりと温かい雰囲気を醸し出している。利用者は食事や入浴、外出など自分で決定する場面が与えられ、のびのびと過ごしている。岐阜県と愛知県に同系列のグループホームが28箇所あり、各ホーム長が協力して実際の介護の場で必要となる職員研修を企画・実施する体制が整ってきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>初回のため無し。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者のみで行われており、職員が日頃のケアを振り返ったり、見直したりすることにつながっていないため、今後は全職員が参加して取り組むことが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地元の自治会長、民生委員、役場の職員、利用者の家族等に出席してもらい、定期的に運営推進会議を開催している。まだ数回しか開催されていないものの、会議を通して地域の行事に参加する機会を得るなど、運営推進会議を活かしつつある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会や請求書を送付する際に利用者の暮らしぶりを家族に伝えたり、ケアプランを見直す際に家族からの要望等を聞き取るといった取り組みが行われている。 家族からは要望や意見等があまり聞かれないとのことだが、ホームが提供する情報と家族が知りたい情報に差がないかを検証したり、家族同士が集まる場を設けて意見を出してもらうような取り組みを期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設されて1年未満ということもあり、地域の人々との日常的なつながりを構築するまでには至っていない。 ホームが地域から孤立することの無いよう、また利用者一人ひとりが地域とのつながりの中で暮らせるよう、運営推進会議等を活用しながら積極的に取り組んでいくことが望まれる。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに移行する前から地域との交流を大切にすることを理念の一つに掲げており、地域との関係を重視している。	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、月1回のカンファレンスの際に運営理念を唱和している。またフロア(ユニット)毎に理念にそった目標を掲げ、その実践に向けた話し合いが行われている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設されて1年未満ということもあり、地域の行事に参加することはあっても、日常的に地元の人々と交流するまでには至っていない。	<input type="checkbox"/>	ホームが地域から孤立することの無いよう、また利用者一人ひとりが地域とのつながりの中で暮らせるよう、積極的に取り組んでいくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者のみで行われており、職員がケアの振り返りや見直し等を行う機会となる自己評価が十分に活かされていない。	<input type="checkbox"/>	評価の一連の流れを全職員が参加して取り組み、ホームの質の確保・向上に活かしていくことが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の自治会長、民生委員、役場の職員、家族等が出席し、定期的にかかれている。運営推進会議を通じて地域の行事(文化祭や夏祭り)への招待を受けるなど、話し合いの内容が活かされている。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場(担当者)へ積極的に出向き、運営に関する様々な相談を行い、ホームへの理解や支援が得られるよう関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月々の請求書を送付する際に、利用者の暮らしぶり等に関するコメントを添えている。また家族の訪問の際には、笑顔で応対しお茶を出しながら利用者のホームでの様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直しの際に家族の要望等を聞き取るようにしているが、あまり意見が出ないため、聞き取りという方法だけではなく、書類に記述してもらう方法を取り入れることを検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は職員の異動も多かったが、現在は落ち着いている。また、フロア(ユニット)にかかわらず職員が利用者を把握できるようにするための異動を行っているが、利用者には配慮して最小限にとどめている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列のグループホームが協力して、現場に即した研修を企画・実施しており、職員は段階に応じてその研修に参加しているが、研修の成果をホームに持ち帰って共有する取り組みは十分ではない。	○	法人の特性を活かした研修体制が整備されているとはいえ、職員が研修に参加できる機会は限られているため、研修に参加した職員の成果を全員で共有する取り組みが必要と思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームで交流や連携を図るための準備が進められており、来年度からは具体的な活動が開始される予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームの見学をしてもらい、理解、納得した上で入居してもらうようにしている。また、入居後は利用者の不安を取り除くことを心がけ、徐々にホームに馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	世話好きな人や家事の得意な人等、利用者一人ひとりの生活歴や個性を大切に、場面ごとに力を引き出し、職員も含めて互いに教え合い、支え合う関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話を聞くことを大切にし、会話の中から食べ物に対する要望、買い物や図書館の利用といった希望をくみ取り、思いや意向がかなえられるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは家族や利用者の希望を取り入れながら、担当者が作成している。職員に相談する体制も整ってきている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1度の見直しであるが、退院時など状況の変化に応じて適宜見直しを行っている。月に一度のカンファレンスがあるので、その際の話し合いの充実が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関以外への付き添いは基本的に家族が行うが、家族が連れて行けない場合は、職員が通院に付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診することができるが、協力医療機関の往診も月に2度ある。通院は家族の同行により行われているが、緊急時などは、ホーム職員が同行し対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設されて1年未満のホームで、今のところ重度の利用者はいない。管理者は重度化や終末期に向けた対応の必要性を認識しているものの、経験の浅いスタッフが、職員が共通認識を持つまでには至っていない。	○	住み慣れたホームで終末を迎えたいと考える利用者や家族が現れることは、十分予測できることである。勉強会やホーム間の交流を通して、早期から職員全体で、終末期に対する対応を考えていく事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ゆったりと落ち着いたトーンで職員が利用者話しかけている。「ちゃん」づけや赤ちゃん言葉を使わないよう徹底されている。丁寧な中にも親しみがこもった接し方で好感が持てた。個人情報の取り扱いにも注意がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分で決定する場面を多く作っている。食事の時間も席に着いた人から食べたり、時間をずらして食べることも出来る。余暇の過ごし方や風呂に入る選択も自分で出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から食べたいもののリクエストをしてもらって作ったり、月に1度の外食では要望に応じて出前してもらったりしている。食事の時間には、利用者と職員が共に食卓に付き、さりげなく気配りをしながら、楽しく話をしながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後、利用者の希望とタイミングに応じて入ることが出来る。希望があれば夕食後や朝からの入浴にも対応できるよう支援している。入浴できていない利用者には清拭を行っている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の家事や裁縫など得意なことをしてもらおうよう働きかけている。芋ほりをしたり、紅葉の季節にはドライブに出かけたり、月見団子を作ったりなど、楽しい生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い季節には、週に一度は外出するようにしている。散歩に行きたい利用者がいれば、職員が連れて行ったり、ドライブに行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけずに入りの鈴で対応している。外に出て行きたがる利用者には様子で察知しながらさりげなく一緒についていくようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作り、緊急連絡網を事務所に貼っている。運営推進会議等で緊急時の協力など呼び掛けているが、両側が団地ということもあり、地域としての認知は今ひとつ足りない。	○	開設されて1年未満ということや、ホームの場所が、垂井町と大垣市の境界にあるということで難しい点もあるが、緊急時の地域の協力はホームにとって必要不可欠のものであるので、折に触れ、ホームの便りを配ったり声掛けを行ったりして、地域への働きかけを行って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて普通食、きざみ食、おかゆなどに対応している、ご飯は柔らかめに炊き、食事の摂取量や水分補給量は把握している。水分を多く摂取できるよう、10時と3時以外にもキーパーを置き、自由に水分摂取できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は天井が高く明るい。観葉植物が置かれたり、季節の飾り、イベント時の利用者の楽しそうな写真が貼られ、共用の空間は居心地の良い空間となっている。出入りを報せる入り口の鈴も優しく心地よい音色である。浴室には入り口からつかまることのできる手すりがあると良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自由に好きなものを持ち込んで下さいと働きかけているが、馴染みのものを持ち込む利用者とうでない利用者がある。		